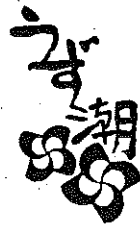


(第3種郵便物認可)

ガーナ、ケニアとアフリカで働き、「アフリカ」が好きだった君。2007年までの3年間勤務していた外務省国際協力局、その後任外交官にと考えた君でした。その希望はかきませんでしたが、そうであれば、どれほどよかったかと思うことがあります。

「(さだまさしさんの)『風に立つライオン』っていいですね。現在(いま)を生きることには思い上がりたくないですね」と少し照れて話した君。剣道を始めたことを笑いながら「がんばって!」と言ってくれた君。エチオピアで拉致された長崎大学院生の解放を「本当によかったですね」と誰より喜んでくれた君。私が地震後のハイチへ緊急援助に行くことを心



やまもと たろう
山本 太郎

岩ぎ反が逝った

にかけ、心配してくれた君でした。その君が、「治療は長く厳しいものになることが予想されます。(中略)何年かかるかわかりませ

んが、必ず帰還しますので、その節はまた…。ご自愛の上、ますますすこ活躍いただきませう。祈念申し上げます(無菌室にて)」という言葉を残して旅立った。あまりに早い旅立ちでした。

君を送る会場には「風に立つライオン」が流れていた。ピクトリア湖の朝焼け、100万羽のフラミンゴで暗くなる空、キリマンジャロの雪、闇の中ではじける祈り、

激しいリズム、南十字星、満天の天の川…。アフリカの大自然の中で、君は、風になったのだろうか。最後まで闘うことを私たちに教え

て。

モデルとなった医師は、君が好きた曲が収録されたアルバムに一文を寄せている。その中にこうある。「この歌は、現代人の心の不摂生のため、過剰にしみついた魂の脂肪に対する警告であるようにも聴こえる」と。現在を生きることに思い上がっていないだろうかとの思いが脳裏を占める。そうであれば、今もそしてこれからも申し訳が立たない。

犬養道子氏著の「人間の大地」の最後の「ローマ人たちへの手紙」からの引用がある。「けだし、万物は陣痛の苦の中でもたえつつ人の子らの和解を待ち望む」

(長崎大熱帯医学研究所教授)